

すると、2.2%にのぼった。

年代と経験薬物との関係では、有機溶剤の生涯経験率は20歳代(4.4%)、30歳代(4.0%)で高く、大麻の生涯経験率は30歳代(3.0%)、20歳代(1.6%)で高かった。何らかの薬物という見方をすると、15~19歳での生涯経験率は1.9%、20歳代では6%、30歳では5.6%となっており、30歳代の男性では10.7%にものぼった。

若い年代で経験率が高いと言うことは、社会全体での薬物乱用傾向が強いことを意味しており、憂慮すべき事態を反映していると考えられた。

⑭ 有機溶剤の乱用が健康に及ぼす害についての知識周知度は、全国中学生調査の調査結果(9)⑪)とほとんど同じであった。しかし、大麻の乱用と覚せい剤の乱用とが健康に及ぼす害については、今回の成人を中心とする調査の方が周知率は高かった。有機溶剤乱用の健康に及ぼす影響については、社会での注意を喚起する必要性が示唆された。

⑮ 違法性薬物の入手可能性については、有機溶剤のみが入手可能群(「簡単に手に入る」+「少々苦労するが、なんとか手に入る」)(47.2%)が入手不可能群(「ほとんど不可能」+「絶対不可能」)(42.2%)を上回っていた。

ただし、年代別に見ると、大麻では15~19歳で24.3%、20歳代で22.1%、30歳代で16.7%が入手可能群となり、覚せい剤では、15~19歳で28.9%、20歳代で22.5%、30歳代で15.2%が入手可能群となった。

大麻及び覚せい剤での入手可能群は、15~19歳で最も高く、これは、「変造テレホンカードの路上での密売→同じルートでの大麻の密売→同じルートでの覚せい剤の密売」という第3次覚せい剤乱用期の出現様式の特徴(12)に一致する結果であった。

⑯ **遵法精神**では、その使用について、大麻では86.2%、覚せい剤では89.1%の者が「法律で禁止されているから、すべきではない」を選んだ。中には本来選択肢にはなかった「法律と関わりなく、すべきではない」と答えられた方もいた。これらは、まさに遵法精神の高さを物語っている。

しかし、年代別に見ると、「すべきでない」を選択した者の率は、大麻でも覚せい剤でも15~19歳が最も少なく、次に20歳代が少ないという結果であり、逆に、「法律で禁止されてはいるが、そもそも法律で決める必要がなく、個人の自由だと

思う」を選択した者の割合は、15~19歳で最も高く、大麻で8.2%、覚せい剤で6.7%にのぼった。

⑰ 以上のように、わが国の薬物乱用・依存状況は、多くの先進諸国に比べて、未だに良好ではあるが、大麻を中心とする違法薬物の生涯経験率が増加傾向にあり、30歳代以下における乱用経験率は決して低いと言えるものではない。さらに、若い世代では、遵法精神の翳りも伺われ、社会的注意喚起の持続・維持が必要と考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表:

- (1) 和田 清: 青少年の薬物乱用・依存の現状。日本社会精神医学会雑誌 8 (3): 195-205, 2000.
- (2) 和田 清: 青少年の薬物乱用の現状と課題②: 予防と回復の鍵は日常生活そのものにある!。「リブドラッグフリー」(編: 石川哲也、勝野真吾、川端徹朗)。学研。pp.16-23, 2000.

2. 学会発表

- (1) Wada, K.: The Short History and Current Situation on Drug Abuse in Japan. Asia Multi-City Epidemiology Workgroup Meeting, Penang, Malaysia, 10-13 May, 1999.
- (2) 和田 清、中野良吾、尾崎米厚、勝野真吾: わが国の中学生における有機溶剤乱用の現状とその背景。第34回日本・アルコール薬物医学会。札幌。1999.9.11
- (3) Wada, K.: Country Report. WHO Meeting on Amphetamine Type Stimulants, Phase II. Bangkok, Thailand, 22-28 November 1999.
- (4) Wada, K.: The Brief History and Current Situation on Drug Abuse in Japan. The 47th Meeting of The Community Epidemiology Work Group. NIDA (USA), Los Angeles, USA, 13-17 December, 1999.
- (5) 第35回日本アルコール・薬物医学会にて発表予定。横浜。2000.7.4-6.

謝辞

本調査研究にご回答をいただいた、多くの方々に、心よりお礼を述べさせていただきます。

引用文献

- 1) 尾崎 茂、和田 清、福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成10年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究（主任研究者：和田清）研究報告書。pp. 85-116, 1999.
- 2) 福井 進、和田 清、伊豫雅臣：薬物依存の世帯調査。平成4年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）」平成4年度研究報告書、pp. 9-23, 1993.
- 3) 福井 進、和田 清、伊豫雅臣：薬物依存の世帯調査。平成5年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）」平成5年度研究報告書、pp. 5-26, 1994.
- 4) 福井 進、和田 清、伊豫雅臣：薬物依存の世帯調査。平成6年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）」平成6年度研究報告書、pp. 5-34, 1995.
- 5) 福井 進、和田 清、伊豫雅臣、浦田重治郎、尾崎 茂：薬物乱用・依存の世帯調査。平成7年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究（主任研究者：寺元 弘）」平成7年度研究報告書第1分冊、pp. 5-35, 1996.
- 6) 福井 進、和田 清、菊池周一、尾崎 茂、浦田重治郎：薬物乱用・依存の世帯調査。平成9年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究（主任研究者：寺元 弘）」平成9年度研究報告書第1分冊、pp. 7-48, 1998.
- 7) 和田 清、福井 進：覚せい剤精神病の臨床症状—覚せい剤使用年数との関係—。アルコール研究と薬物依存 25:143-158, 1990.
- 8) Wada, K.; Cocaine Abuse in Japan. *Lpn. J. Alcohol & Drug Dependence* 29: 83-91, 1994.
- 9) 和田 清、勝野真吾、尾崎米厚、中野良吾：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究。平成8年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）研究報告書「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」（主任研究者：寺元 弘）第1分冊薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究（2）。pp. 21-60. 1996.
- 10) Wada, K., Price, R. K., Fukui, S.: Reflecting Adult Drinking Culture: Prevalence of Alcohol Use and Drinking Situations among Japanese Junior High School Students in Japan. *Journal of Studies on Alcohol* 59: 381-386, 1998.
- 11) 和田 清、中野良吾、尾崎米厚、勝野真吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査。平成10年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究（主任研究者：和田 清）研究報告書。pp. 19-83, 1999.
- 12) 和田 清：薬物依存の最近の傾向と対策。日本医事新報 第3920号：25-32, 1999.
- 13) 和田 清：中学生における飲酒—飲酒文化の反映—。日本アルコール・薬物医学会雑誌 34:36-48, 1999.

薬物使用についてのアンケート調査

ご協力へのお願い

国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部は、薬物の使用状況、乱用実態などを調査し、薬物使用および乱用に対する対策のための基礎資料作りを行っている厚生省の調査研究機関です。

このたび、全国にお住まいの15歳以上の方、5,000人に、薬物の使用実態をおたずねすることになりました。お忙しいところ、突然で、恐縮ですが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

あなた様をお訪ねいたしましたのは、住民台帳より、「くじ引き」と同じ統計上の理論と手法によって、無作為で調査対象を抽出させていただいた結果です。

調査のために、お訪ねしました調査員は、当研究所より委託しました、調査専門機関である社団法人新情報センターの調査員です。

お訪ねしました調査員は、あなた様の住所・氏名を存じ上げた上で、お訪ねしたわけですが、後日、回収におうかがいし、調査用紙を受け取る際には、回収用封筒に入れられた調査用紙を受け取るだけです。あなた様が記載された内容を知ることはできません。また、調査用紙回収後は、調査対象者名簿はすみやかに廃棄されます。

また、結果の分析は、当研究部にて行いますが、当研究部ではどの調査用紙がどの方のものか、特定することができません。

したがって、あなた様の個人情報漏れることはありません。

本調査用紙には、個人が特定される項目はありません。

調査の趣旨にご理解をいただきまして、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

なお、本調査につきまして、ご意見、ご質問等がございましたら、下記の新情報センターまでお問い合わせ下さいませようお願い申し上げます。

(些少ですが調査員に粗品を持参させました。ご笑納下さい。)

ご記入に際してのお願い

- 1) ご記入は、鉛筆または、黒・青のボールペンでお願いします。
- 2) 回答は、あなたの気持ち・考え・実情に最も近いものの番号を○印で囲んで下さい。
必要に応じて、() 内にご記入下さい。
- 3) ご記入は、質問の番号や矢印(→)にそってお願いいたします。
- 4) その他、記入上おわかりにならない点などがありましたら、調査員にお尋ねになるか、下記の(社)新情報センターまでお問い合わせ下さい。

回収日時

____月 ____日 ____時頃に、回収にお伺いします。それまでにご記入の上、回収用封筒に入れて、調査員にお渡し下さいますようお願い申し上げます。調査員名(____)

平成11年10月

<調査企画>

国立精神・神経センター
精神保健研究所
薬物依存研究部

<調査実施機関>

社団法人 新情報センター
東京都渋谷区恵比寿1-13-6
TEL: (03) 3473-8833
担当: 市村、北村

【あなたご自身について、おたずねします。】

問1 性別を教えてください。(○は1つ)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問2 お年は満おいくつですか？(○は1つ)

1. 15～19歳	2. 20～24歳	3. 25～29歳	4. 30～34歳	5. 35～39歳
6. 40～44歳	7. 45～49歳	8. 50～59歳	9. 60歳以上	

問3 最後に出られた学校は、次のどれにあたりますか？(○は1つ)

1. 小学校（尋常小学校も含む）	2. 中学校（尋常高等小学校も含む）
3. 高等学校（旧制中学校・高女も含む）	4. 短大・大学以上（旧制高等学校も含む）

問4 あなたは、現在、学生・専業主婦・パートタイム・アルバイト等を含めて、以下のどれに該当しますか？(○は1つ)

<p>学生</p> <p>1. 中学生</p> <p>2. 高校生</p> <p>3. 予備校生</p> <p>4. 専門学校、各種学校生徒</p> <p>5. 短大生・大学生・大学院生</p> <p>自営業種、家族従業員</p> <p>8. 農林漁業の自営者</p> <p>9. 商店主（小売業・卸売店の店主など）</p> <p>10. 工場主（製造工場・自動車整備工場・印刷工場主など）</p> <p>11. 土木建設業種（工務店主など）</p> <p>12. 医療関係業種（病院経営、薬局・薬店主など）</p> <p>13. サービス業事業主（旅館主、喫茶店主、理・美容店主、クリーニング店主、運送店主など）</p> <p>14. その他の事業主（弁護士・会計士事務所経営、宗教家、プロスポーツ選手など）</p> <p>勤め人</p> <p>15. 販売従業者（販売店員、外交員、行商人、セールスマンなど）</p> <p>16. 保安従業者（警察官、消防士・自衛官、守衛・管理人・ガードマンなど）</p> <p>17. 運輸従業者（運転手、機関士・車掌など）</p> <p>18. 通信従事者（電話交換手、通信士など）</p> <p>19. サービス業従事者（ウエイター、ホステス、家政婦、ガイドなど）</p> <p>20. 技能職従事者（理容師、美容師、調理師など）</p> <p>21. 土木建築業従事者（大工、とび職、土工、左官、配管工、その他建設作業員など）</p> <p>22. 工場労働者、工業作業員（洋服仕立て工、印刷工、板金工、自動車修理工、旋盤工、メッキ工など）</p> <p>23. その他の労務従事者（採鉱員、荷役作業員、清掃員など）</p> <p>24. 専務従事者（事務系会社員、事務系公務員、タイピスト、記者など）</p> <p>25. 管理的職業（課長以上の公務員、民間会社の部長以上など）</p> <p>26. 医療職従事者（医師、看護婦、薬剤師など）</p> <p>27. その他の専門・技術職従事者（技術者、弁護士、教師、研究者など）</p> <p>28. 専業主婦</p>

29. 無 職

30. その他（具体的に： _____ ）

【あなたの飲酒習慣について、おたずねします。】

問 5 現在の、あなたの飲酒習慣は、以下のどれに該当しますか？（○は1つ）

- | | | | |
|---|--|------------------|------------------|
| 1. そもそも、これまでに一度も飲んだことがない → 問 6 へ | } → | 1~4の場合
補問 1 へ | |
| 2. 現在禁酒中。または、禁酒した
その場合、止めてからどのくらいになりますか？ | | } → | 5~7の場合
補問 3 へ |
| 1. 1ヶ月未満 2. 3ヶ月未満 3. 6ヶ月未満 4. 1年未満
5. 3年未満 6. 5年未満 7. それ以上 | | | |
| 3. 禁酒したわけではないが、この1年間では飲んでいない → 補問 2 へ | | | |
| 4. この1年間で、数回飲んだ（年間5回以内） | | } → | |
| 5. 2ヶ月に1回程度、飲んだ（年間約6~11回） | | | |
| 6. 月に1~2回程度、飲んだ（年間約12~24回） | | | |
| 7. 月に数回程度、飲んだ（年間約25~51回） | | | |
| 8. 週に1~2回程度、飲んでいる | ※ここで言う飲酒には、梅酒等も含みます。また、「飲む」とは、「なめる」「口をつける」も含めます。 | | |
| 9. 週に3~6回程度、飲んでいる | | | |
| 10. ほとんど毎日、飲んでいる | | | |

補問 1 （この1年間に飲酒したことのある人におたずねします） この1年間は、主にどのような機会に飲むことが多いですか？（○はいくつでもけっこうです）

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. 冠婚葬祭時 | 6. 家での食事や団らんで |
| 2. 仕事や商売上の必要で | 7. 外での食事や団らんで |
| 3. 上司とのつきあいで | 8. 仕事や職場でいやなことがあったとき |
| 4. 友人・同僚とのつきあいで | 9. 家の中でおもしろくないことがあったとき |
| 5. その他のつきあいで | 10. 寝る前に |
| | 11. その他（具体的に： _____ ） |

補問 2 これまでに禁酒しようかと考えたことがありますか？（○は1つ）

- | |
|-------------------------|
| 1. 禁酒中。ただし、まだ1年たっていない |
| 2. 禁酒を試みたが失敗した |
| 3. 禁酒を考えたが実行したことがない |
| 4. 禁酒を考えたことはない → 補問 4 へ |

補問 3 （禁酒した人および禁酒しようかと考えたことがある人におたずねします。）
禁酒しようかと考えた大きな理由は何ですか？（○はいくつでもけっこうです）

- | |
|------------------------------------|
| 1. 健康上の不調を感じたことはないが、その可能性が心配になったから |
| 2. 健康上の不調を感じたから |
| 3. 問題は起こしたことはないが、自分の飲酒に問題を感じたから |
| 4. 飲酒で問題を起こしたから |
| 5. その他（具体的に： _____ ） |

補問 4 あなたが、「いたずら」を含めて、初めてアルコールを口にしたのはいつ頃ですか？（○は1つ）

- | | | | |
|------------|----------|----------|--------------|
| 1. 小学校以前 | 2. 小学校時代 | 3. 中学校時代 | 4. 中卒後18歳より前 |
| 5. 18歳~19歳 | 6. 20歳以降 | | |

↓
補問 5 あなたが、本格的に、飲酒し始めたのはいつ頃ですか？（○は1つ）

- | | | | |
|------------|----------|----------|--------------|
| 1. 小学校以前 | 2. 小学校時代 | 3. 中学校時代 | 4. 中卒後18歳より前 |
| 5. 18歳～19歳 | 6. 20歳以降 | | |

↓
【あなたの喫煙習慣について、おたずねします。】

問 6 あなたは、現在たばこをお吸いになりますか？（○は1つ）

- | | | | |
|-------------------------|----------|----------|---------|
| 1. 以前から吸ったことがない → 問 7 へ | | | |
| 2. 以前吸っていたが、現在は吸っていない | | | |
| その場合、止めてからどのくらいになりますか？ | | | |
| 1. 1ヶ月未満 | 2. 3ヶ月未満 | 3. 6ヶ月未満 | 4. 1年未満 |
| 5. 3年未満 | 6. 5年未満 | 7. それ以上 | |
| } → 補問 2 へ | | | |
| 3. 1日に1～10本吸っている | | | |
| 4. 1日に11～20本吸っている | | | |
| 5. 1日に21本以上吸っている | | | |
| 6. おもにパイプたばこを吸っている | | | |

↓
補問 1（たばこを吸っている方におたずねします。） これまでに禁煙しようかと考えたことがありますか？（○は1つ）

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 禁煙を試みたが失敗した | 3. 禁煙を考えたことはない → 補問 3 へ |
| 2. 禁煙を考えたが実行したことがない | |

↓
補問 2（禁煙した人および禁煙しようかと考えたことがある人におたずねします。）
禁煙しようかと考えた大きな理由は何ですか？（○はいくつでもけっこうです）

- | |
|---|
| 1. 健康上の不調を感じたことはないが、その可能性が心配になったから |
| 2. 健康上の不調を感じたから |
| 3. 人から強く言われた訳ではないが、喫煙者は「白い目」で見られるようになってきたから |
| 4. 人から禁煙を強く言われたから |
| 5. その他（具体的に： _____） |

↓
補問 3 あなたが、「いたずら」を含めて、初めてたばこを吸ったのはいつ頃ですか？（○は1つ）

- | | | | |
|------------|----------|----------|--------------|
| 1. 小学校以前 | 2. 小学校時代 | 3. 中学校時代 | 4. 中卒後18歳より前 |
| 5. 18歳～19歳 | 6. 20歳以降 | | |

↓
補問 4 あなたが、本格的に、たばこを吸い始めたのはいつ頃ですか？（○は1つ）

- | | | | |
|------------|----------|-------------------|--------------|
| 1. 小学校以前 | 2. 小学校時代 | 3. 中学校時代 | 4. 中卒後18歳より前 |
| 5. 18歳～19歳 | 6. 20歳以降 | 7. 本格的な喫煙には至らなかった | |

↓
【鎮痛薬、睡眠薬、精神安定薬（抗不安薬）等についてお伺いします。】

問 7 次の薬のうち、あなたのご家庭にいつも用意しているものに○をつけて下さい。
（○はいくつでもけっこうです）

- | | | | |
|---------|----------|----------|---------|
| 1. 特にない | 4. ビタミン剤 | 7. 精神安定薬 | 10. 湿布薬 |
| 2. 風邪薬 | 5. 強精強肝薬 | 8. 睡眠薬 | 11. その他 |

3. 胃腸薬 6. 鎮痛薬 9. 抗生物質 (具体的に:)

問8 次の薬のうち、あなたが常用(週に4回以上使用)している薬があったら、○をつけて下さい。
(○はいくつでもけっこうです)

1. 特にない 4. ビタミン剤 7. 精神安定薬 10. 湿布薬
2. 風邪薬 5. 強精強肝薬 8. 睡眠薬 11. その他
3. 胃腸薬 6. 鎮痛薬 9. 抗生物質 (具体的に:)

問9 あなたは、この1年間で、平均すると鎮痛薬をどのくらいの頻度で使用しましたか? (○は1つ)

1. 一度も飲んでいない → 問10へ
4. この1年間で、数回飲んだ(年間5回以内)
5. 2ヶ月に1回程度、飲んだ(年間約6~11回)
6. 月に1~2回程度、飲んだ(年間約12~24回)
7. 月に数回程度、飲んだ(年間約25~51回)
8. 週に1~2回程度、飲んでいる
9. 週に3~6回程度、飲んでいる
10. ほとんど毎日、飲んでいる

補問1 (この1年間に、鎮痛薬を飲まれたことのある方におたずねします。) 鎮痛薬はどこから入手しましたか? (○はいくつでもけっこうです)

1. 医師(医院・病院)から 3. 家族(常備薬)から 5. 愛人・恋人から
2. 薬剤師・薬局から 4. 友人・知人から 6. その他(具体的に:)

補問2 使用理由は以下のどれですか? (○はいくつでもけっこうです)

1. 頭痛のため 2. 生理痛のため 3. その他の痛みのため 4. 遊び(快感)目的で
5. その他(具体的に:)

問10 鎮痛薬の中には、依存(やめようと思っても、簡単にはやめられなくなる状態)を作り得るものもありますが、そのような鎮痛薬も含めて、鎮痛薬の使用についての、あなたの実情・心情は次のどれに該当しますか? (○は1つ)

1. 必要な時には、心配せずに、使っている
2. 必要な時には、心配もあるが、どちらかという、使っている
3. 必要な時でも、心配だから、どちらかという、使わないようにしている
4. 必要な時でも、心配だから、とにかく使わない

問11 あなたは、この1年間で、平均すると精神安定薬(抗不安薬)をどのくらいの頻度で使用しましたか? (○は1つ)

1. 一度も飲んでいない → 問12へ
4. この1年間で、数回飲んだ(年間5回以内)
5. 2ヶ月に1回程度、飲んだ(年間約6~11回)
6. 月に1~2回程度、飲んだ(年間約12~24回)
7. 月に数回程度、飲んだ(年間約25~51回)
8. 週に1~2回程度、飲んでいる
9. 週に3~6回程度、飲んでいる
10. ほとんど毎日、飲んでいる

↓
補問1 (この1年間に、精神安定薬(抗不安薬)を飲まれたことのある方におたずねします。) 精神安定薬(抗不安薬)はどこから入手しましたか？(○はいくつでもけっこうです)

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 医師(医院・病院)から | 3. 家族(常備薬)から | 5. 愛人・恋人から |
| 2. 薬剤師・薬局から | 4. 友人・知人から | 6. その他(具体的に:) |

↓
補問2 使用理由は以下のどれですか？(○はいくつでもけっこうです)

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1. 不眠改善のため | 2. 不安解消のため | 3. ストレス軽減のため |
| 4. 高血圧の治療のため | 5. 遊び(快感)目的で | 6. その他(具体的に:) |

↓
問12 精神安定薬(抗不安薬)の中には、依存を作り得るものもありますが、そのような精神安定薬(抗不安薬)も含めて、精神安定薬(抗不安薬)の使用についての、あなたの実情・心情は、次のどれに該当しますか？(○は1つ)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 必要な時には、心配せずに、使っている |
| 2. 必要な時には、心配もあるが、どちらかという、使っている |
| 3. 必要な時でも、心配だから、どちらかという、使わないようにしている |
| 4. 必要な時でも、心配だから、とにかく使わない |

↓
問13 あなたは、この1年間で、平均すると睡眠薬をどのくらいの頻度で使用しましたか？(○は1つ)

- | |
|----------------------------|
| 1. 一度も飲んでいない → 問14へ |
| 4. この1年間で、数回飲んだ(年間5回以内) |
| 5. 2ヶ月に1回程度、飲んだ(年間約6~11回) |
| 6. 月に1~2回程度、飲んだ(年間約12~24回) |
| 7. 月に数回程度、飲んだ(年間約25~51回) |
| 8. 週に1~2回程度、飲んでいる |
| 9. 週に3~6回程度、飲んでいる |
| 10. ほとんど毎日、飲んでいる |

↓
補問1 (この1年間に、睡眠薬を飲まれたことのある方におたずねします。) 睡眠薬はどこから入手しましたか？(○はいくつでもけっこうです)

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 医師(医院・病院)から | 3. 家族(常備薬)から | 5. 愛人・恋人から |
| 2. 薬剤師・薬局から | 4. 友人・知人から | 6. その他(具体的に:) |

↓
補問2 使用理由は以下のどれですか？(○はいくつでもけっこうです)

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1. 不眠改善のため | 2. 不安解消のため | 3. ストレス軽減のため |
| 4. 高血圧の治療のため | 5. 遊び(快感)目的で | 6. その他(具体的に:) |

↓
問14 睡眠薬の中には、依存を作り得るものもありますが、そのような睡眠薬も含めて、睡眠薬の使用についての、あなたの実情・心情は、次のどれに該当しますか？(○は1つ)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 必要な時には、心配せずに、使っている |
| 2. 必要な時には、心配もあるが、どちらかという、使っている |
| 3. 必要な時でも、心配だから、どちらかという、使わないようにしている |
| 4. 必要な時でも、心配だから、とにかく使わない |

【薬物乱用・依存についてお伺いします。】

問15 以下の薬物は、すべて依存（止めようと思っても簡単にはやめられない状態）を作り得る薬物です。あなたが知っている名前の薬物があったら、○をつけて下さい。

(○はいくつでもけっこうです)

1. 大麻	5. モルヒネ	9. マリファナ	13. トルエン	17. ハシッシ
2. LSD	6. 有機溶剤	10. アシッド	14. シンナー	18. エス
3. スピード	7. 麻葉	11. ヒロポン	15. ヘロイン	
4. ハッパ	8. コカイン	12. クラック	16. 覚せい剤	19. すべて知らない

問16 薬物乱用を繰り返すと、依存状態になることを知っていますか？ (○は1つ)

1. よく知っている	2. だいたい知っている	3. 知らない
------------	--------------	---------

問17 「シンナー遊び」をする人の数について、どのような印象をお持ちですか？ (○は1つ)

1. 以前より増えている	2. 変わらない	3. 以前より減っている	4. わからない
5. 「シンナー遊び」と言う言葉を知らない→ 問18へ			1~4の場合→補問1へ

補問1 (問17で1~4を選んだ方におたずねします) あなたは、「シンナー遊び」を、これまでに行ったことのある人を知っていますか？

(2. 「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない	2. 知っている → () 人
---------	------------------

補問2 (問17で1~4を選んだ方におたずねします) あなたは、「シンナー遊び」を、この1年間で、実際に行った人を知っていますか？

(2. 「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない	2. 知っている → () 人
---------	------------------

補問3 あなたは、これまでに「シンナー遊び」に誘われたことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない	2. この1年間より前にあった	3. この1年間にあった
-------	-----------------	--------------

補問4 あなたは、これまでに一回でも、「シンナー遊び」を経験したことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない	2. この1年間より前にあった	3. この1年間にあった
-------	-----------------	--------------

問18 「シンナー遊び」で死亡すること (きゅうせいちゅうどくし急性中毒死) があるのを知っていますか？ (○は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問19 「シンナー遊び」を繰り返すと、歯がぼろぼろになりやすいことを知っていますか？ (○は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問20 「シンナー遊び」を繰り返すと、手足の筋肉や神経が衰え、物をつかめなくなったり、歩けなくなること (たはつしんけいえん多発神経炎) があるのを知っていますか？ (○は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問25 あなたは大麻を吸うと、上記の問21や問22と同じ精神病状態せいしんびょうじょうたいや無動機症候群むどうきしょうこうぐんになることがあるのを知っていますか？（○は1つ）

1. 知っている 2. 知らない

問26 あなたは、覚せい剤を使っている人の数について、どのような印象をお持ちですか？（○は1つ）

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない
5. 覚せい剤という言葉を知らない → 問27へ 1~4の場合→補問1へ

補問1（問26で1~4を選んだ方におたずねします）あなたは、覚せい剤を、これまでに使ったことのある人を知っていますか？

（2. 「知っている」を選んだ場合は、（ ）内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい）

1. 知らない 2. 知っている →（ ）人

補問2（問26で1~4を選んだ方におたずねします）あなたは、覚せい剤を、この1年間で、実際に使った人を知っていますか？

（2. 「知っている」を選んだ場合は、（ ）内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい）

1. 知らない 2. 知っている →（ ）人

補問3 あなたは、これまでに、覚せい剤使用に誘われたことがありますか？

（○はいくつでもけっこうです）

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

補問4 あなたは、これまでに一回でも、覚せい剤を使用したことがありますか？

（○はいくつでもけっこうです）

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問27 覚せい剤を使うと、上記の質問21と同じ精神病状態になりやすく、また質問23のようなフラッシュバックがあることを知っていますか？（○は1つ）

1. 知っている 2. 知らない

問28 あなたは、ヘロインを使用している人の数について、どのような印象をお持ちですか？（○は1つ）

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない
5. ヘロインという言葉を知らない → 問29へ 1~4の場合→補問1へ

補問1（問28で1~4を選んだ方におたずねします）あなたは、ヘロインを、これまでに使ったことのある人を知っていますか？

（2. 「知っている」を選んだ場合は、（ ）内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい）

1. 知らない 2. 知っている →（ ）人

補問2（問28で1~4を選んだ方におたずねします）あなたは、ヘロインを、この1年間で、実際に使った人を知っていますか？

(2. 「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない 2. 知っている → () 人

補問3 あなたは、これまでに、ヘロイン使用に誘われたことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

補問4 あなたは、これまでに一回でも、ヘロインを使用したことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問29 あなたは、コカインを使用している人の数について、どのような印象をお持ちですか？ (○は1つ)

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない
5. コカインという言葉を知らない → 問30へ 1~4の場合 → 補問1へ

補問1 (問29で1~4を選んだ方におたずねします) あなたは、コカインを、これまでに使ったことのある人を知っていますか？

(2. 「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない 2. 知っている → () 人

補問2 (問29で1~4を選んだ方におたずねします) あなたは、コカインを、この1年間で、実際に使った人を知っていますか？

(2. 「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない 2. 知っている → () 人

補問3 あなたは、これまでに、コカイン使用に誘われたことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

補問4 あなたは、これまでに一回でも、コカインを使用したことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問30 あなたは、LSDを使用している人の数について、どのような印象をお持ちですか？ (○は1つ)

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない
5. LSDという言葉を知らない → 問31へ 1~4の場合 → 補問1へ

補問1 (問30で1~4を選んだ方におたずねします) あなたは、LSDを、これまでに使ったことのある人を知っていますか？

(2. 「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない 2. 知っている → () 人

↓
補問2 (問30で1~4を選んだ方におたずねします) あなたは、LSDを、この1年間で、実際に使った人を知っていますか？

(2.「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない 2. 知っている → () 人

↓
補問3 あなたは、これまでに、LSD使用に誘われたことがありますか？ (○はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

↓
補問4 あなたは、これまでに一回でも、LSDを使ったことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

↓
問31 あなたが「シンナー遊び」のために有機溶剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいことですか？ (○は1つ)

1. 簡単に手に入る 4. 絶対不可能だ
2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る 5. 「シンナー」という言葉を知らない
3. ほとんど不可能だ

↓
問32 あなたが大麻を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ
5. 大麻という言葉を知らない

↓
問33 あなたが覚せい剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ
5. 覚せい剤という言葉を知らない

↓
問34 あなたがヘロインを手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ
5. ヘロインという言葉を知らない

↓
問35 あなたがコカインを手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ
5. コカインという言葉を知らない

↓
問36 あなたがLSDを手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ
5. LSDという言葉を知らない

↓
問37 大麻を吸うことは法律で禁止されていますが、あなたは大麻を吸うことについて、どう思いま

すか？ (○は1つ)

1. 法律で禁止されているから、すべきではないと思う
2. 法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、そもそも法律で決める必要はなく、個人の自由だと思う
4. 大麻のことを知らないから、判断できない

問38 覚せい剤を使用することは法律で禁止されていますが、あなたは覚せい剤を使用することを、どう思いますか？ (○は1つ)

1. 法律で禁止されているから、すべきではないと思う
2. 法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、そもそも法律で決める必要はなく、個人の自由だと思う
4. 覚せい剤のことを知らないから、判断できない

問39 最後の問いです。あなたが、この1年間に受診したことがある診療科に○をして下さい。
(○はいくつでもけっこうです)

- | | | | | |
|--------|------------|----------|-----------------|---------|
| 1. 内科 | 2. 神経科・精神科 | 3. 神経内科 | 4. 外科 | 5. 整形外科 |
| 6. 皮膚科 | 7. 脳神経外科 | 8. 泌尿器科 | 9. 産婦人科 | 10. 眼科 |
| 11. 歯科 | 12. 耳鼻咽喉科 | 13. 心療内科 | 14. その他(具体的に:) | |

ご協力ありがとうございました。

なお、この調査についての結果は、来年の7月頃に公表します。

結果をお知りになりたい方は、ハガキにあなた様の住所、氏名をご記入になり、下記の「結果請求用紙」を点線に沿って切り取り、ハガキに貼付の上、1999年11月末日までに、下記住所（点線に沿って切り取り、ハガキに添付して下さい）までご請求下さい。来年の7月頃に郵送させていただきます。

（結果は、調査対象全員について、統計的にまとめられたものであり、個人について論じたものではありません。ただし、郵送の必要上、あなた様が本調査の対象の一人であったことが、当研究部にはわかりますが、当研究部では、あなた様ご自身の記載内容を特定することはできませんし、あなた様が本調査の対象の一人であったことを漏らすことは、一切ありません。）

注：下記を切り取る際は、裏面の回答が切り取られないよう、点線に沿ってお切り下さい。

結果請求先

住民調査99の 千272-0827 千葉県市川市国府台 1-7-3
結果を 国立精神・神経センター 精神保健研究所
請求します 薬物依存研究部 住民調査 担当者 宛

分 担 研 究 報 告 書
(1-2)

全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

分担研究者 尾崎 茂 国立精神・神経センター精神保健研究所

研究要旨 平成10年度の調査結果をもとに再検討を行い、地域別ならびに医療施設区分別の症例報告の状況について分析した。また、併用薬として大麻使用歴のある症例が着実に増加しつつあることから、一般社会における大麻乱用の拡大により注意が必要であると考えられた。有機溶剤と覚せい剤使用との関係に注目して検討した結果、有機溶剤使用から覚せい剤使用へと発展する症例群の背景には、反社会的集団への接近性や享楽・リスク指向の傾向の要因が関連することが示唆された。一方、有機溶剤単独使用症例では精神科治療がより早期に開始されていることから、障害がより早期に出現していることがうかがわれ、若年の有機溶剤乱用の問題は依然として楽観できない状況であると考えられた。また、有機溶剤使用の既往による覚せい剤症例群の検討からは、先行使用のある群でより多剤乱用傾向が認められ、精神病性障害の既往が高率に出現していたことから、併用薬物の精神病症状形成への影響について基礎・臨床両面からさらなる検討が必要であると考えられた。

分担研究者 尾崎 茂
国立精神・神経センター
精神保健研究所 心理社会研究室長

- (a) 有機溶剤使用歴が先行する覚せい剤症例と有機溶剤単独症例の比較検討
- (b) 有機溶剤使用の有無による覚せい剤症例の比較検討

A. 研究目的

現在は第三次覚せい剤乱用期といわれ、検挙者数や押収量の増加においても、乱用の拡大がより深刻な状況になりつつある。薬物乱用の実態を知るためには、多面的な疫学研究が欠かせない。本調査研究は精神科医療の現場における薬物乱用・依存の実態を把握するために、1987年以来、全国のすべての有床精神科医療施設を対象に行われてきており、その実態把握およびさまざまな対策を考える上で、貴重な資料を提供してきた。今年度の調査研究においては、1998年度の実態調査¹⁾について再分析ならびに詳細な検討を行うとともに、次年度の実態調査に向けての準備を行うことを目的とした。

B. 研究方法

1998年度実態調査における結果の検討

- (1) 施設別症例数の検討
- (2) 都道府県別症例数の検討
- (3) 施設別にみた症例の診断内訳の検討
- (4) 併用薬物と使用開始年齢
- (5) 大麻症例の検討
- (6) 有機溶剤使用と覚せい剤使用

C. 結果 および D. 考察

(1) 施設別症例数の検討

1998年度の実態調査¹⁾においては、調査対象となった1,648施設のうち、調査期間中において835施設(50.7%)より回答があり、275施設(16.7%)より910例の該当症例の報告を受けた¹⁾。その後、寄せられた報告を合わせると、最終的には843施設(51.2%)より回答があり、280施設(17.0%)より937例の症例が報告された。1996年度の回答施設数578施設(1,567施設中の36.9%)に比較して回答率は14.3%上昇した。

主たる薬物別の症例数と割合を示す。

覚せい剤症例	452例 (48.2%)
有機溶剤症例	237例 (25.3%)
睡眠薬症例	56例 (6.0%)
抗不安薬症例	15例 (1.6%)
鎮痛薬症例	29例 (3.1%)
鎮咳薬症例	29例 (3.1%)
大麻症例	10例 (1.1%)
その他症例	14例 (1.5%)
多剤(L)症例	50例 (5.3%)
多剤(IL)症例	45例 (4.8%)

(注：多剤(L)：主たる使用薬物として単一の薬

	1993	1994	1996	1998
対象施設総数	1572 (100.0%)	1572 (100.0%)	1567 (100.0%)	1648 (100.0%)
回答施設総数	799 (50.8%)	772 (49.1%)	578 (36.9%)	843 (51.2%)
「症例あり」施設数	266 (16.9%)	258 (16.4%)	251 (16.0%)	280 (17.0%)
「症例なし」施設数	533 (33.9%)	514 (32.7%)	327 (20.9%)	563 (34.2%)

表1 回答状況(1993～1998年度調査)

医療施設区分	施設数(%)	「症例あり」施設数(%)	症例数(%)
国立病院・療養所	48 (2.9%)	18 (37.5%)	110 (11.7%)
自治体立病院			
都道府県立病院	69 (4.2%)	33 (47.8%)	157 (16.8%)
市町村立病院	74 (4.5%)	12 (16.2%)	32 (3.4%)
大学医学部附属病院	83 (5.0%)	31 (37.3%)	67 (7.2%)
民間病院	1374 (83.4%)	186 (13.5%)	571 (60.9%)
計	1648 (100.0%)	280 (17.0%)	937 (100.0%)

表2 医療施設区分別にみた回答状況

医療施設区分	全症例	覚せい剤	有機溶剤	睡眠薬・抗不安薬
国立病院・療養所	6.1	3.3	1.5	0.3
自治体立病院				
都道府県立病院	4.7	2.6	1.2	0.3
市町村立病院	2.8	1.8	0.8	0.0
大学医学部附属病院	2.2	0.6	0.2	0.5
民間病院	3.1	1.5	0.8	0.2

表3 医療施設区分別にみた主たる使用薬物別該当症例数(覚せい剤, 有機溶剤, 睡眠薬・抗不安薬)

物を特定できないが、それらが規制薬物でないもの；多剤 (IL)：同薬物が規制薬物であるもの¹⁾)

表1は1993年から1998年までの調査における回答の状況を示す。これによると「症例あり」と回答した施設数は約260施設で全体の約16%に相当し、この数値にはほとんど変動がみられないことがわかる。一方、全体の回答率は「症例なし」と回答した施設数により左右されることが示されている。

表2は、医療施設区分別にみた症例数である。「症例あり」と回答した施設数の割合は、都道府県立病院が47.8%と最も高く、次いで国立病院・療養所、大学病院であった。

表3は、全症例、覚せい剤症例、有機溶剤症例、睡眠薬および抗不安薬症例について、医療施設区分別の1施設あたりの症例数をみたものである。全症例でみると、国立病院・療養所が6.1例と最

も多く、都道府県立病院が4.7例とこれに次いだ。覚せい剤症例の報告においても国立病院・療養所が3.3例と最も多く、都道府県立病院が2.6例とこれに次いでいた。有機溶剤症例も同様の傾向であった。一方、睡眠薬・抗不安薬症例では大学医学部附属病院が最も多かった。

(2) 都道府県別症例数の検討

都道府県別にみた症例数を表4に示す。全症例数では、東京、千葉、北海道、大阪、福岡、神奈川の順で多かった。覚せい剤、有機溶剤の報告症例数においても、東京、千葉、北海道、大阪、福岡が上位5都道府県を占めた。

1998年における覚せい剤事犯検挙者数をみると²⁾、全国での検挙者総数16,888人のうち、1,000人以上の検挙者がみられた都道府県は、東京都(2,486人)、大阪府(2,205人)、神奈川県(1,186人)および福岡県(1,093人)の4都道府県であり、

全症例 (937例)		覚せい剤 (452例)		有機溶剤 (237例)		睡眠薬および抗不安薬 (71例)	
例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)
① 東京	113 (12.1%)	① 千葉	63 (13.9%)	① 千葉	34 (14.3%)	① 北海道	12 (16.9%)
② 千葉	111 (11.8%)	② 東京	58 (12.8%)	② 福岡	30 (12.7%)	② 東京	8 (11.3%)
③ 北海道	78 (8.3%)	③ 大阪	41 (9.1%)	③ 大阪	16 (6.8%)	③ 神奈川	5 (7.0%)
④ 大阪	72 (7.7%)	④ 北海道	39 (8.6%)	④ 北海道	16 (6.8%)	④ 群馬	4 (5.6%)
⑤ 福岡	71 (7.6%)	⑤ 福岡	32 (7.1%)	⑤ 東京	14 (5.9%)	⑤ 岡山	4 (5.6%)
⑥ 神奈川	42 (4.5%)	⑥ 静岡	26 (5.8%)	⑥ 熊本	13 (5.5%)	⑥ 千葉	3 (4.2%)
⑦ 群馬	40 (4.3%)	⑦ 神奈川	21 (4.6%)	⑦ 愛知	12 (5.1%)	⑦ 大阪	3 (4.2%)
⑧ 静岡	34 (3.6%)	⑧ 広島	17 (3.8%)	⑧ 神奈川	10 (4.2%)	⑧ 京都	3 (4.2%)
⑨ 愛知	34 (3.6%)	⑨ 愛知	15 (3.3%)	⑨ 宮崎	10 (4.2%)	⑨ 石川	3 (4.2%)
⑩ 熊本	30 (3.2%)	⑩ 愛媛	13 (2.9%)	⑩ 宮城	7 (3.0%)		

表4 都道府県別にみた症例数(覚せい剤, 有機溶剤, 睡眠薬・抗不安薬)

覚せい剤(F15.x)	国立病院・療養所	自治体立病院		大学医学部附属病院		民間病院	計
		都道府県立	市町村立	国公立	私立		
報告施設数/全施設数 回答率(%)	18/48 (37.5%)	25/69 (36.2%)	8/74 (10.8%)	5/50 (10.0%)	8/33 (24.2%)	111/1374 (8.1%)	175/1648 (10.6%)
報告施設あたり症例数	2.7	3.4	2.5	1.8	1.4	2.3	2.5
F15.0 急性中毒		3 (3.5%)				2 (0.8%)	5 (1.2%)
F15.1 有害な使用	1 (2.1%)	4 (4.7%)				2 (0.8%)	7 (1.6%)
F15.2 依存症候群	6 (12.5%)	11 (12.8%)	4 (20.0%)	5 (55.6%)	3 (27.3%)	35 (13.7%)	64 (14.9%)
F15.3 離脱状態						3 (1.2%)	3 (0.7%)
F15.4 せん妄を伴う 離脱状態						3 (1.2%)	3 (0.7%)
F15.5 精神病性障害	25 (52.1%)	36 (41.9%)	5 (25.0%)	2 (22.2%)	1 (9.1%)	91 (35.5%)	160 (37.2%)
F15.6 健忘症候群							0
F15.7 残遺性障害お よび遅発性の 精神病性障害	14 (29.2%)	24 (27.9%)	8 (40.0%)	2 (22.2%)	7 (63.6%)	95 (37.1%)	150 (34.9%)
F15.8 他の精神およ び行動の障害	1 (2.1%)	3 (3.5%)	1 (5.0%)			3 (1.2%)	8 (1.9%)
F15.9 特定不能						6 (2.3%)	6 (1.4%)
F15.x 不明	1 (2.1%)	5 (5.8%)	2 (10.0%)			16 (6.3%)	24 (5.6%)
計	48 (100.0%)	86 (100.0%)	20 (100.0%)	9 (100.0%)	11 (100.0%)	256 (100.0%)	430 (100.0%)

表5 医療施設区別にみたICD-10診断分類別症例数(覚せい剤症例)

症例数の多い都道府県とほぼ一致がみられた。また、これらの都道府県には薬物関連精神疾患に対して専門的に診療にあたる医療機関が比較的多く存在することも関連していると思われる。

(3) 施設別にみた診断分類(覚せい剤および有機溶剤症例)

(ア) 覚せい剤症例(表5)

覚せい剤症例について施設別にどのような症例が報告されたかについて、ICD-10による分類から見た結果が表5である。覚せい剤症例のうち主診断としてICD-10における「F15.x」の診断がなされていた430例について医療施設区別にみた症例数の内訳を示した。

有機溶剤(F18.x)	国立病院・療養所	自治体立病院		大学医学部附属病院		民間病院	計
		都道府県立	市町村立	国公立	私立		
報告施設数/全施設数 「症例あり」回答率(%)	5/48 (10.4%)	21/69 (30.4%)	7/74 (9.5%)	6/50 (12.0%)	2/33 (6.1%)	85/1374 (6.2%)	126/1648 (7.6%)
報告施設あたり症例数	4.4	1.9	1.6	1.0	1.0	1.8	1.8
F18.0 急性中毒	1 (4.5%)	1 (2.6%)				13 (8.7%)	15 (6.6%)
F18.1 有害な使用						4 (2.7%)	4 (1.7%)
F18.2 依存症候群	9 (40.9%)	17 (43.6%)	5 (45.5%)	3 (50.0%)	1 (50.0%)	54 (36.2%)	89 (38.9%)
F18.3 離脱状態		1 (2.6%)				1 (0.7%)	2 (0.9%)
F18.4 せん妄を伴う 離脱状態						2 (1.3%)	2 (0.9%)
F18.5 精神病性障害	6 (27.3%)	9 (23.1%)	2 (18.2%)	2 (33.3%)	1 (50.0%)	28 (18.8%)	48 (21.0%)
F18.6 健忘症候群						1 (0.7%)	1 (0.4%)
F18.7 残遺性障害および遅発性の 精神病性障害	4 (18.2%)	8 (20.5%)	4 (36.4%)	1 (16.7%)		22 (14.8%)	39 (17.0%)
F18.8 他の精神および行動の障害	2 (9.1%)					5 (3.4%)	7 (3.1%)
F18.9 特定不能		2 (5.1%)				5 (3.4%)	7 (3.1%)
F18.x 不明		1 (2.6%)				14 (9.4%)	15 (6.6%)
計	22 (100.0%)	39 (100.0%)	11 (100.0%)	6 (100.0%)	2 (100.0%)	149 (100.0%)	229 (100.0%)

表6 医療施設区分別にみたICD-10診断分類別症例数(有機溶剤症例)

覚せい剤症例は調査対象施設の10.6%にあたる175施設より報告があり、報告一施設あたりの症例数は2.5例であった。都道府県立病院で3.4例と最も多く、国立病院・療養所が2.7例とこれに次いでいた。一方、大学医学部附属病院では少なく、私立大学医学部附属病院で1.4例と最も少なかった。

全体としてみると、「F15.5：精神病性障害」と「F15.7：残遺性障害および遅発性の精神病性障害」がそれぞれ約1/3を占めており、両者を合わせると約70%もの症例が何らかの精神病状態を呈していることが想定された。一方、「F15.2：依存症候群」は主診断としては14.9%と比較的低かった。

施設別の診断をみると、国立病院・療養所から報告された症例においては、半数が「精神病性障害」であり、約30%が「残遺性障害および遅発性の精神病性障害」であった。都道府県立病院でも同様の傾向がみられた。民間病院では「精神病性障害」および「残遺性障害および遅発性の精神病性障害」が約1/3ずつであった。これに対して、大学病院では例数は少ないものの、「依存症候群」

として報告された症例の割合が比較的高かった。

(イ) 有機溶剤症例(表6)

同様に、有機溶剤症例について表6に示した。有機溶剤症例は調査対象施設のうち7.6%にあたる126施設より症例の報告があり、一施設あたりの症例数は1.8例であった。施設別では、国立病院・療養所で4.4例と最も多く、大学医学部附属病院では1.0例と最も少なかった。

診断を全体としてみると、依存症候群(F18.2)の割合が38.9%と最も高く、精神病性障害(F18.5)が17.0%でこれに次いでいた。また、残遺性障害および遅発性の精神病性障害(F18.7)も17.0%と精神病性障害に次いで高い割合を示した。

施設別にみた診断では、国立病院・療養所および自治体立病院においては、それぞれ依存症候群が40%前後、精神病性障害が25%前後を占めていた。大学医学部附属病院では、依存症候群と精神病性障害がほぼ同数みられた。

(4) 併用薬物の検討(図1, 図2, 図3)

本調査では、調査時点において臨床的に最も病像形成に寄与していると考えられる薬物を「主た

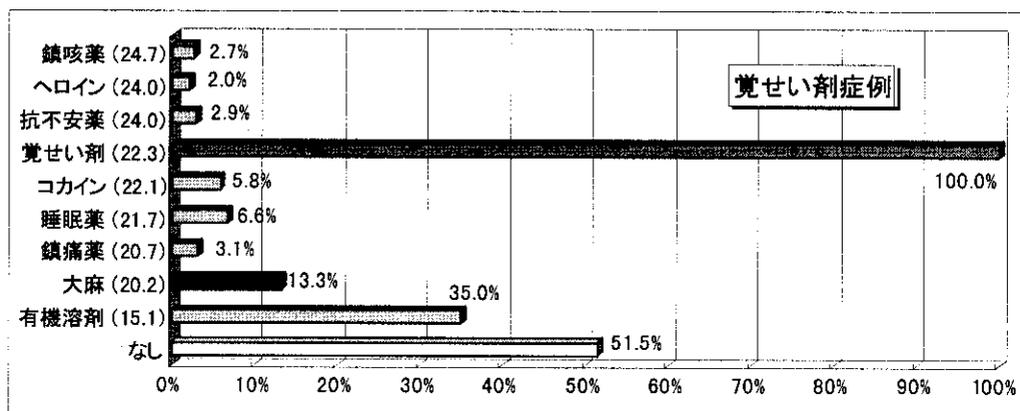


図1 覚せい剤症例における他薬物の併用状況

(注) 図1～3における()内の数字は各薬物の平均使用開始年齢を示す

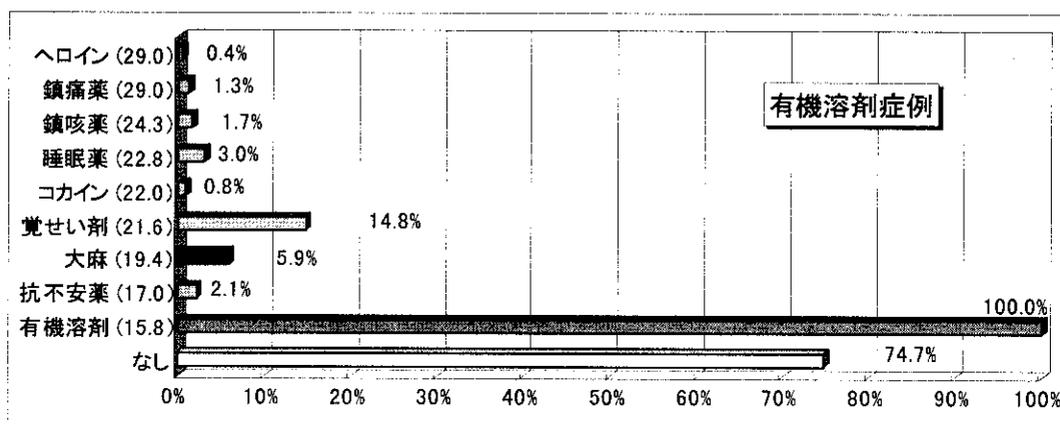


図2 有機溶剤症例における他薬物の併用状況

る使用薬物」として報告を受け、当該症例を「(主たる使用薬物) 症例」として分類している。また、主たる使用薬物を臨床的に一剤に特定することが困難な場合は「多剤症例」として分類している¹⁾。しかし、主たる使用薬物が一剤に特定可能な症例においても、過去にあるいは調査時においても主たる使用薬物以外にいくつかの薬物を使用している場合が決して少なくない。そこで、覚せい剤症例と有機溶剤症例において併用薬物とその初回使用年齢を模式的に図式化した結果を図1、2に示す。

覚せい剤症例においては、単独使用例が51.5%と約半数を占め、併用薬物では有機溶剤併用例が35.0%と高い割合を占めていた。これらのほとんどは有機溶剤使用が先行していた。また、有機溶剤初回使用年齢は15.1歳と、有機溶剤症例における有機溶剤使用開始の15.8歳よりさらに低年齢であった。併用薬物としては、有機溶剤に次いで大

麻が13.3%と高く、その平均使用開始年齢は20.2歳と覚せい剤の平均使用開始年齢より低年齢であった(図1)。

有機溶剤症例においては、併用薬物のない単独使用症例が74.7%と3/4を占めていることが大きな特徴である。平均15.8歳で有機溶剤を使用し、併用薬物としては覚せい剤が14.8%にみられ、大麻は5.9%であった。覚せい剤、大麻とも覚せい剤症例に比較して使用開始が低年齢の傾向がみられた(図2)。

また、一般医薬品である鎮咳薬を主たる使用薬物とする症例においては他の医薬品に比較して併用薬物やその使用年齢において顕著な特徴がみられた。鎮咳薬単独使用の症例は全体の1/3程度であるが、有機溶剤、コカイン、大麻、覚せい剤等の違法薬物ならびに睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬などの医薬品の併用頻度も高い。覚せい剤、有機溶剤、大麻の使用開始年齢も覚せい剤症例、有機溶